贈る言葉

佐藤 純訟

森田昌幸先生についての印象は二つあります。一つ目は、とてもダンディーだということです。いつも肩の線がビシッと決まっているスーツでした。仕立てだったのでしょうか。青色やモスグリーン系が多かったような記憶があります。二つ目は、強面に見えるようで実はかわいらしい表情をしているということです。話される内容は、けっこう洒落を使った面白いものでした。そのギャップが好きでした。森田先生のお言葉でいまも染みついているのは、「学生に勉強しろというのなら、まずは教員が学びの姿を見せないといけないよ。」です。私にとっての金言ですが、覚えていらっしゃるでしょうか。森田昌幸先生、本当にご指導をありがとうございました。

一期一会

市川 直子

私がはじめて森田先生にお会いしたのは経済学部で在職していた20年程前です。経済学部から現代政策学部が分離する前年、森田先生は学部長を務めておられました。新学部反対で荒れる教授会において平身低頭に誠意を込めて説得なさっておられました。

心に残るシーンをもう1つ。ある年の夏、私が4号館の授業準備室の扉を開くと、森田先生は箒と塵取りを手に、シュレッダーの前に散らばる紙の小片を集めていました。慌てて私が手伝いを申し出ると、先生は「手伝わなくていいから、森田がきちんと掃除をしていたと周りの人に言って欲しい」とにこやかに仰いました。

君詮索したまふことなかれ

木原 匡

2005年の坂戸キャンパスは、現代政策学部の設立にまつわる陰謀や憶測が飛び交い、ソビエト連邦崩壊前夜のような様相を呈していた。

森田先生は新規教員が城西大学の既存の教職員と軋轢を生じることを大変心配され、「○○先生には毎週電話しなさい」など私も色々とご忠告をいただいた。そんな中で違和感とともに印象に残っているが「他の教員についての評価を学生に絶対聞いてはいけない」である。あれから20年弱、授業の評判などを学生から一生懸命聞き出して自称「事情通」だった方は悉く身を滅ぼしており、森田先生の慧眼には恐れ入る。

かくいう森田先生ご自身は学内のあるゆることの「事情通」であり、いかなる諜報活動を行っておられたのか、機会があったらお聞きしたい。

パイプの香り

細井 純枝（事務室）

森田先生が城西大学を去ってから12年程が過ぎ、今や現職時代の先生を知る職員も数名となりました。

先生のイメージは、中折れ帽子にチェックのジャケットそしてパイプの香りです。ある日、黒のウエスタンハット姿の先生を学内でお見かけした時は、大変驚いた事を覚えています。とてもお似合いでしたよ。

これからもお身体に気をつけてお元気にお過ごしください。